

自立・責任	自尊感情	協調性	コミュニケーション	思いやり	主体性	特別な支援の充実	市町教育委員会の取組
-------	------	-----	-----------	------	-----	----------	------------

コミュニケーション能力を育成するための取組

呉市立波多見小学校 校長名：三王 千尋 【民泊】北広島町

キーワード：ねらいの焦点化・話のテーマ・話を引き出す

1 コミュニケーション能力向上に向けた体験活動の概要

(1) 児童が積極的にコミュニケーションをとる3泊4日の体験活動の主な内容

ふるさと音戸町と北広島町の自然や産業・伝統文化の違いを知り、双方の地域の良さを感じさせる。

- 農業・林業体験
- 民泊家庭での田舎暮らし体験
- 伝統芸能体験

	午前	午後	夜
1日目	清流体験	農業体験 田舎暮らし体験（夕食作り）	田舎暮らし体験
2日目	雲月山登山	田舎暮らし体験（夕食作り）	田舎暮らし体験
3日目	林業体験	田舎暮らし体験（夕食作り）	伝統芸能体験
4日目	奉仕活動	まとめの会	

(2) ねらい (◎重点)

- ◎ 民泊先家庭とのコミュニケーションを大切にし、相手の立場になり、相手の思いを受け入れ、相手が納得するように自分の思いを言葉で伝えようとする。
- 話し手が自分に伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなど相手の話の内容を十分聞き取るように意識づける。



ポイント：ねらいの焦点化

話すことだけのねらいではなく、話題となった内容について、自分の考えと比べて共通点や相違点、また関連して考えたことなどを聞き手に返すことなど、聞くことについて具体的なねらいを設定しています。

2 実践の内容

(1) 体験活動に向けた事前学習

地元のことを民泊先の家庭に紹介するなど、コミュニケーションをとることに期待感を持たせながら、子供たちが民泊先の方に進んで話したくなるように地元の良さや北広島町との共通点を子供たちに考えさせ、知らない人にも、子供たちから積極的にコミュニケーションがとれるように、話の切り出し方の準備を行いました。

○ 事前学習の計画

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・産業や伝統文化の特徴について知るために、北広島町と呉市の様子について調べる。 ・民泊家庭に紹介をするために、水産教室に参加したり、音戸町の紹介新聞を作ったりする。 ・体験活動の目標を設定したり、役割分担を決めたりする 	6月～7月 (10時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間 ・国語科 ・図画工作科 ・学級活動

子供たちが地元の波多見地域を研究し、特徴的な風景の写真を、コメントを考えて持っていきました。遠足で音戸の瀬戸公園に行き、吉川栄治や郷土の文学者などの碑めぐりをした時、音戸の瀬戸の「おんどのわたし」といわれる渡し船に乗って音戸大橋の下をくぐっている様子の写真や、教室から見える海の写真などを持っていきました。写真を見せながら、その写真にまつわる話ができるように準備をしていきました。



事前学習によって話をする事ができた児童の感想

- 教室から見える波多見の海の写真などを持っていきました。その写真を見せながら、お世話になる民泊のおじちゃんやおばちゃんに話しかけました。はじめは、きんちょうしましたが、写真を見せると、「きれいじゃね。北広島町とは、だいぶんちがうね。行ってみたいねえ。」「これは、何をしているときの写真なのかね。」と話はずみしました。学校でいろいろと準備をしていたので、その質問にも答えることができたと思います。
- はじめはきんちょうしました。はじめて準備をしてきた写真を見せると、おじちゃんが「おうきれいだね。こんなところで毎日勉強しようるんか。いいのう。」と言ってくれたので、とてもうれしかったです。

ポイント：話のテーマ

民泊先に行った時の具体的な場面を想像させて、話のテーマを準備しておくことで、子供たちの方から積極的に話をする事ができます。深く調べさせ、具体物を準備しておくことが重要です。自分たちのふるさとを民泊先の方に伝えることができたという自信をもつことができます。

さらにステップアップ!!



写真を提示したり、伝えたいことをメモしたりして、子供たちに形として持たせておくことで、風景などが伝わりやすくなり、話はずみします。また、その写真を見て、民泊先の方の質問を受ける等、相手の話を引き出すことにもつながり、相手の話を聞くという目標に近づきます。

(2) 3泊4日の体験活動中

①民泊家庭での夕食作りの時

夕食作りに取り組んだ児童の感想

- 夕食作りの時、おじちゃんとおばちゃんは「上手だね。」「昨日よりもうまくなったよ。」など、たくさんほめてくれました。そんなことをたくさん聞いていると、自然と話すことができるようになっていました。わたしは、学校でも、おじちゃんとおばちゃんの話し方を真似ていきたいと思いました。そうしたら、学校の友達とももっと仲良くなれると思いました。
- 1日目は、なかなか話せなかったけど、夕食作りを一緒にした時から、だんだんと話ができるようになってきました。初めて、一緒に同じことをする時に、料理の仕方を聞いたり、夕食作りで使う野菜の話の聞いたりしました。野菜は、5か月も大事に育ててきたという話を聞いて驚きました。「すごい！いつもいつもお世話をしている、おじちゃんとおばちゃんもすごいね。」びっくりすると自然にそんな言葉が出てきて、みんなで笑い合いました。

②民泊先のおじちゃんとおばちゃんとの会話

民泊先での児童の感想

- 始めは、なかなか話ができなかったけど、わたしが話した波多見のことや写真を見せたりして、「きれいな風景じゃね。」「波多見のことを良く調べて、勉強しているわあ。」などと、波多見のことや話をしたことをほめてくれたので、そのあとは、とても話しやすくなりました。
- 「昨日よりも、片付けを自分で進んでできるようになったねえ。」「包丁の使い方が上手になったねえ。」と、ぼくのことを見てくれて前よりも良くなったとほめてくださったので、うれしくていろいろと話ができました。

体験活動当日のポイント：相手の話を引き出す

話をする側に立つだけでなく、民泊先のおじちゃんとおばちゃんの話をしっかり聞くことによって、相手の思いを受け止めながらコミュニケーションを図ることができます。民泊の方からの質問に合わせてさらに説明を付け加えるなど、聞き方についても、子供たちに考えさせていることが効果的です。

さらにステップアップ!!



話し方を教えるだけではなく、聞き方についても、日頃の学びを活用することができます。小学校学習指導要領解説国語編第5学年及び第6学年には、「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること」と指導事項が示されており、さらに「話の目的や意図は何か、自分に伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなど相手の話の内容を十分に聞き取る…」とあります。国語科の言語活動と関連付けるなどの工夫をしていくと効果的です。

引用：小学校学習指導要領解説国語編第5学年及び第6学年